

## 5月号の天気コラム

### 季節の移り変わり

日本には季節のはざまに長雨の季節があります。冬から春は、菜の花が咲く時期で、「菜種梅雨」。春から夏が梅の実が熟するころで「梅雨」。夏から秋の長雨は「秋霖」。秋から冬は、サザンカが咲く時期で「さざんか梅雨」。日本人の感性あふれる呼び名がついています。また、晩春から初夏のあいだのまさにこの時期の長雨を「筍梅雨」とよんでいます。

\*『季節と暮らす 365日 (日本気象協会編、アリス館)』より

**会報閲覧室 (玉造連盟事務所) 『山々』 2017年3月号・No.112 大阪志峰会 / 28頁** 毎月、各会から会報や府県連盟ニュースが連盟事務所に届けられています。この会報・ニュースは、いつでも閲覧できるように連盟事務所 (玉造) の会報閲覧コーナーに置いています。いつでも是非ご覧ください。

今月は大阪志峰会の機関紙を紹介しましょう。大阪志峰会の会報は年に数回の発行ですが、会報はコンパクトにまとめられ12名の原稿もそれぞれ読み応えがありました。実は先日の5月理事会で中尾邦博さんから「はい、これをどうぞ」と最新の会報を受け取りました。私はその会報を手にして、まずシンプルな表紙に引き付けられ、さらにページをめくってみると一気に読んでみたい記事が満載でした。「こちらピーク」(中尾)の巻頭言では、連盟と大阪志峰会の創立50周年記念行事を振り返り、スポーツクライミングや入山届け義務化など近年の登山事情にも感想を述べられています。最後に「機関紙『山々』112号は会の山行履歴、113号には一人ひとりの山へ行って帰ってきたその感想は仲間の山への誘いです」と『山々』の発行への参加を呼びかけています。その他、ある日の金剛山、変わる芦生、御在所・藤内壁前尾根を登る、韓国济州島ハルラサンを臨む山、おもしろ雑学・箱根金時山などバラエティに富んでいました。みなさんも是非一度、『山々』を閲覧して下さい。

### 4月、この一冊を 『日本の山と高山植物』 (小泉武栄、平凡社新書)

先月号の著書で紹介しました同じ著者、元東京学芸大教授で地理学者の小泉武栄氏は、かつて『登山時報』でも研究成果として日本の山々を紹介してきました。今回のこの著書も、はじめにから「日本の山はなぜこんなに美しいのだろうか。山の自然の調査に当たりながら、私はいつもそう思ってきた」で始まり、「日本の山の自然を観察しながら歩くと、自然の成り立ちがよく理解でき、山歩きが本当に三倍楽しくなる。登山の際、本書もザックの中に入れていただき、該当する場所で適宜ひもといいただければ」と締めています。日本の山に高山植物がある不思議として、ヨーロッパアルプスと比較しながら、強風や世界的な多雪の条件で説明しています。平ヶ岳や苗場山の高層湿原、木曾駒ヶ岳のヒメウスユキソウや北岳の固有種キタダケソウの解説も興味深い。

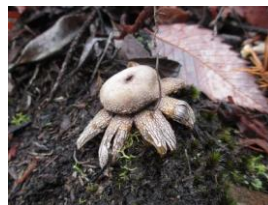
## ◇編集後記◇

連盟も新しい年度に入って、気象に関する講座や春山連絡会が行われています。講座は単発講習会として昨年より実施され、今年度も「夏山登山と気象（入門編）」が5月9日より始まります。また、先日の連盟春山連絡会（4月20日）では、「なだれについて」、「春山の気象」の報告があり、気象庁数値予報天気図や昨年5月連休の気象について情報交換がありました。私も個人的に気象について興味を持っており、今後も学習していきたいと決意したところです。ところで私たち日常生活のなかの自然現象はもちろん、登山についても日本の地形や気象の学習は、高校の地学で履修することになるのです。私の高校時代（1960年代）は理科の中の地学は必修で、よく理科の先生が天気図の書き方や地質調査のフィールドワークに連れて行って下さった記憶があります。しかし、近年の高校の理科は地学を選択せず、まったく学ばないまま卒業する生徒が多い実情があります。原因として大きいのは大学入試制度、入試科目に地学が含まれないことが多いためです。全国の生徒のうち地学を学ぶ生徒は推計で約10%という報告もあります。地質や気象学などが含まれ、防災とかかわりが深い地学について、国政レベルでももっと危機感を持ってほしいものです。

ところで今年も里山一斉調査・泉南畔の谷コースに参加してきました（4月8日）。天候がすっかりしなかつたので参加者は少なかったのですが、それなりに少人数でゆっくりノンビリ、中身の濃い観察会となりました。今回は周辺の山桜が「決して吉野に負けていない」ほどの見事な景観に気づきました。また、山中で出会ったアミガサダケやツチグリは変わった形状のキノコで、私にとっては大発見でした。ツチグリは乾いている時は丸まり、湿気を帯びると開きやすいといわれ、星の湿度計と呼ばれることもあるそうです。みんなで楽しく観察しながら歩く里山一斉調査、来年も参加したいと決めました。



アミガサダケ



ツチグリ

\*\*\*\*\*

今月も各会より会報を送っていただきました。

安治川山の会ニュース（安治川山の会）、やまなかま（泉州労山）、きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぼんぼん山（高槻）、山々（大阪志峰会）奈良県連ニュース、滋賀県連ニュース、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、HCかざぐるま、京都労山、噴煙（鹿児島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）、明昭（西宮明昭山の会）

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、大西清

\*\*\*\*\*